

# 研究主題：情報及び情報技術を主体的に選択し活用していく児童の育成

## ーICTを活用した主体的・対話的で深い学びの実現と情報活用能力の育成を目指してー（上牧町立上牧第三小学校）

### 1. 研究の概要

#### 【研究の趣旨】

ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの実現と情報活用能力の育成を通して、児童の思いや考えの表出の仕方について検討する。

#### (1) 授業内での問題解決・探究における情報活用の方法の理解(知識及び技能)と情報を活用する力(思考力、判断力、表現力等)についての検討

- ・教科学習に必要なGoogle Workspace内・その他のアプリを児童自ら選択し活用していく場面の設定
- ・情報活用能力に関わる学習の流れの設定  
「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現→振り返り・改善」の繰り返しによる学習

#### (2) 校内研究授業・職員研修の実施

- ・校内研究授業の討議、討議後の外部講師による助言からの新たな発見
- ・年に複数回、職員で3つのチーム(情報に関わる基本的操作・アプリ活用・アンケート)に分かれて集まり、指導法や指導の振り返りを実施

#### (3) 全学年児童・職員対象のアンケートの実施

定量分析に加え、文章記述による定性分析の実施

アンケート内容	2学期	3学期
パソコンを使って発表したり友だちの発表を聞いたりする学習をしたいと思いますか（プレゼンテーション）	4年 68.0% 5年 80.0% 6年 68.1%	4年 <b>77.8%</b> 5年 <b>78.8%</b> 6年 <b>76.6%</b>
パソコンを使った学習で、学級の友達に教えたり、教えてもらったりすることはありますか（協働）	4年 86.0% 5年 77.2% 6年 83.0%	4年 <b>90.8%</b> 5年 <b>90.9%</b> 6年 <b>95.8%</b>
目的に応じて使うアプリを選んで効果的に使うことができますか（アプリケーションの効果的な活用）	4年 64.0% 5年 91.5% 6年 91.5%	4年 <b>81.5%</b> 5年 <b>97.0%</b> 6年 <b>93.6%</b>

### 2. 研究のまとめ

アンケートの分析結果から、「プレゼンテーション」「協働」「アプリケーションの効果的な活用」の3項目の肯定的な回答をした児童の割合が概ね向上した。本研究の趣旨である、「ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの実現と情報活用能力の育成を通して、児童の思いや考えの表出の仕方について検討する」について考察した。「児童の思いや考えの表出の仕方について」は一定程度達成できたといえる。その要因として考えられるのは、使用するアプリケーションを対象の学習課題に対して、児童自ら選択し活用する場面を設定したこと、探究の学習過程の効果的な指導法の導入、研修や外部講師からの助言を通して教員自身が研鑽し続けたことの3つである。

しかし、残る「ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの実現」「情報活用能力」の実態については、今後の課題と考える。主体的・対話的で深い学びの実現のためには、「探究学習のあり方」が鍵と考える。さらに探究学習のあり方について研究する必要がある。また、「情報活用能力」について文部科学省から示されている内容のうち、特に「プログラミング的思考」については今後、積極的に取り組む必要のある内容であると考えている。「情報手段の基本的な操作の習得」「情報モラル」「探究の学習過程」については十分と言えないが、取組を進めてきた。今後は全国学力・学習状況調査や校内アンケートも含め、来年度の研究の方向性を職員全体で決定する。

### 3. 研究へのコメント

ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの実現と情報活用能力の育成に関わり、児童が思いや考えを表出する手段として「プレゼンテーション」「協働」「アプリケーションの効果的な活用」の3項目に焦点を当て、その達成度及び課題達成のための効果的な手法についての的確に分析された研究報告である。残る課題である「ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの実現」「情報活用能力」の実態について、「探究学習のあり方」「プログラミング的思考」をその課題解決のための手段としてとらえる根拠を明確にした上で、引き続きICT活用に関わる研究を進めていくことを期待する。